

1. 調査報告概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成19年9月27日

【評価実施概要】

事業所番号	2772403099
法人名	社会福祉法人 みすず福祉会
事業所名	しらかばグループホーム
所在地	枚方市出屋敷西町2丁目5番1号 (電話) 072-849-8888
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成19年9月3日

【情報提供票より】(平成19年7月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年9月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人	常勤	4人, 非常勤 13人, 常勤換算 14.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての	1階	～ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350円	昼食	600円
	夕食	650円	おやつ	100円
	または1日当たり 1,700円			

(4) 利用者の概要(平成19年7月31日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	8名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	77歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	しらかばホール診療所、京阪奈病院、たかはま歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの理念として「家庭的な雰囲気にな脳活性化訓練を取り入れた共同生活を行い、明るく、楽しく、ときめきを感じて、心の若返りを目指します」を掲げています。2ユニットのホームは、道路から丘陵地の下に広がる、田園の中に建てられています。広い敷地内の平屋建てのホームは、芝生の広い庭があり、特養が隣接しています。各ユニットは行き来でき、利用者同士も自由に交流しています。芝生の一角には菜園があり、トマトやきゅうり、スイカやメロンを植えています。利用者は自由に庭へ出ることができ、外気浴や季節の野菜を収穫しています。利用者のできること、持っている力を引き出す声かけ、見守りをしています。希望により、お酒も提供しており、利用者の楽しみになっています。管理者、職員ともによりよいサービス提供に向けて、利用者の自由な暮らしの実現を目指し、取り組んでいます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	前回の評価結果を会議で報告し、改善に向けて取り組んでいます。この1年間で職員の入替わりがあり、共通認識を図りながら、記録物の整理や排泄ケアの改善に向けた取り組みが行われています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	会議、勉強会で評価の意義について説明しています。管理者、職員は、外部評価を真摯に受け止めており、質の向上にむけて取り組む姿勢を感じることができます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、利用者も参加し、家族、地域の住民代表、地域包括支援センター、職員の構成メンバーで2ヶ月に1回実施しています。外部評価の結果や地域との交流、家族や利用者の要望、行事への参加などが話し合われています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会の運営支援などを通して、意見や苦情を聞く機会を設けています。毎日の個別記録を毎月家族に送付し、利用者の様子を伝えています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	管理者は、ホームの盆踊り等、行事への参加を呼びかけています。今後は、ホームから近隣地域へ、散歩や商店街への買い物など積極的に出かけ、地域住民の一員として交流することが求められます。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念として「家庭的な雰囲気にも脳活性化訓練を取り入れた共同生活を行い、楽しく・明るく・ときめきを感じて心の若返りを目指します」を明文化し、運営方針に地域の連携を謳っています。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、職員、利用者、家族、地域の人にも目に付くよう玄関に掲示しています。また、職員の名札の裏にも明記されています。管理者は、理念を具体化し自然に利用者が笑顔、元気の出る取り組みを目指しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	ホームは田畑の中にあり、近隣は工業地帯で民家とは少し離れています。地域との交流を図るために、併設特養との夏祭りには、地域に広告をだし、参加を募りました。また、運営推進会議には民生委員の参加もありますが、事業所として地元住民との交流は十分とはいえません。	○	地域との関係が強まるような取り組みが求められます。保育園、小学校との交流や、近隣への散歩、施設前の沿道の掃除など、身近なことから始めてはいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、外部評価の意義を理解し、自己評価を質の向上のために活用しています。前回の評価結果をふまえて、排泄のケアの改善や食事のカロリー把握などに取り組ましました。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催し記録しています。利用者、家族、地域包括支援センター職員、住民代表の出席を得て意見を聞き、ホームの役割を示しながら、サービスの向上に取り組んでいます。また、運営推進会議の規定、規約も作成しています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃より市の担当者と連携を図り、運営についてわからないことがあれば、その都度相談しています。事故報告は、市のフォーマットを使用し必要時に報告しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ほとんどの家族が、ひと月に1回は来訪しており、その時に利用者の様子を伝えていきます。定期的な便りの発行はしていませんが、毎日の利用者の様子を詳細に記録としてまとめ、小口現金の収支決算とともに毎月報告しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には、意向を聴取しています。また、玄関先に意見箱を設置しています。家族会もあり、会議では家族からの要望や意見の出やすいような雰囲気作りに留意しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、認知症ケアにおける馴染みの関係の重要性を認識し、できるだけ変更がないように努力をしています。	○	職員の異動や離職の場合、業務がスムーズに流れるような取り組みとともに、掲示や便りなどで家族や利用者を紹介するなどの工夫が求められます。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修合わせて年6回以上の研修を実施ししています。緊急時の対応、感染症や認知症などの研修は行われていますが、記録での確認ができませんでした。今後内部研修や、併設特養との研修なども計画しています。	○	外部研修に参加した際、資料と共に報告や記録を残し、会議等での伝達が求められます。また、欠席者についても記録物へのサインなどで全職員が情報を共有したことの確認が求められます。今後は、正職員以外の職員が外部研修に参加することについて検討されてははいかがでしょうか。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域交流会への参加や、同法人内での職員交流会に参加し、質の向上に向けての意見交換や情報の提供を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学はいつでも可能です。特養のショートステイ利用者が、遊びに来ることもあります。また、入居前の面接は、利用者の自宅に訪問し実施しています。その際に、入居前の生活の様子など情報収集を行い、入居後できるだけ早く環境に馴染めるようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事や洗濯、掃除など日常生活をともに楽しんでいる様子が伺えます。利用者と職員との関係も、職員の不得意なところを利用者が手伝い、若い職員とは孫のような関係で共に過ごし支えあっています。お互いの信頼関係や和やかな生活場面がみられました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し生活歴や利用者及び家族の希望を聞き取り、記録に残し情報を職員間で共有しています。花の水遣りやカレンダーの日付のチェックが日課となっている利用者もいます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、センター方式のアセスメントシートを使用し、過去の生活歴や希望を利用者や家族から聞き取り、作成しています。利用者一人ひとりのできる事、できない事を把握しています。また介護計画は、利用者や家族に説明し、同意のサインを得ています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画については、毎月のユニット会議で話し合いが行われています。6ヶ月ごとに、また必要時に見直しています。毎日の個人ケア記録は電子ノートを利用し少しずつ整理をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	医療連携体制をとり、早期退 院の支援など行っています。社 会資源などの情報も提供しホ ーム内で快適に生活できるよう に取り組んでいます。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかり つけ医と事業所の関係を築き ながら、適切な医療を受けら れるように支援している	入居前の受診状況を把握し、 利用者や家族の希望を確認し 、できるだけ希望に添った対 応をしています。また、併設 施設の診療所があり緊急時の 対応などにも安心できる環 境になっています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期の あり方について、できるだけ 早い段階から本人や家族等 ならびにかかりつけ医等と 繰り返し話し合い、全員で 方針を共有している	看取りに関するマニュアルを 作成しています。家族の協 力を得ながらホームでの看 取りにも取り組んでいます。 入居時より、利用者や家 族の意向を確認するととも にできるだけ穏やかで快適 に生活できることを基本と し、状況に応じて話し合い をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報やプライバシーの保護について、職員会議や採用時研修で、職員に意識付けをしています。居室の表札は、利用者や家族が希望される場合のみ掲示しています。ホーム内には「命令形や指示系の言葉遣いはいけません」を貼っています。しかし排泄誘導の言葉かけが、少し気になる職員がいました。今後も学習会などで、振り返りの機会を持つことが望まれます。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはありますが、利用者一人ひとりの日常生活のペースを大切に、職員側のペースにならないようにしています。その人らしい生き方をチームで検討して見守っています。入浴、食事でも急かすことなく利用者のペースが基本になっています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の購入は業者からの配送ですが、畑で採ってきた野菜が食材になることもあります。献立は利用者の希望を聞き、食事の際の事前準備、調理、配膳、片付けなど、職員と一緒にできる範囲で利用者も関わっています。また酒類も可能で利用者の楽しみになっています。	○	今後は、食材を選ぶことで食の意欲や嗜好品の把握、季節を感じることもできるため、週に1回程度は、利用者と共に食材購入に取り組むことが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の回数は週3回ですが、希望により毎日でも可能です。個室やゆったりと2～3人で入浴できる浴槽があり、希望に応じた入浴ができます。また、できるだけ同性介助での入浴を心がけています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	男性で調理の得意な方は、調理や盛り付けが日課となっています。コミュニケーションが少し困難となってきた利用者も得意な書道で、家族に暑中見舞いを出しました。精神的に不安定な利用者も、食器の片付けが役割で、食器棚に几帳面に整理しています。利用者一人ひとりの生活歴や得意なことを引き出して支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関前にフェンスで仕切った芝生の庭や畑があり、外気に触れる機会がありますが、敷地外への散歩や買い物など、日常的な外出支援が十分とは言えない状況です。	○	日常の散歩や利用者一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて、喫茶店や買い物、ドライブなどの取り組みが求められます。職員体制の問題もありますが、時には食事作りの時間を外出支援に当てるなど工夫されてはいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の鍵を可能な範囲で開錠しています。出入りは自由ですが、玄関から続く芝生の庭は転倒の危険性も高く、見守りの支援をしています。庭からエレベーターか階段を使用し階上に上がると道路に繋がりますが、そこにも鍵はかけていません。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルを作成し、年に2回の防災訓練を実施しています。その内1回は併設特養とともに、消防署の指導を受け消火訓練をしています。災害時の非常食料や備品についての備蓄は、併設特養法人として管理をしています。	○	災害時の備蓄については、必要量をホームで準備しておくことが求められます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は利用者の意見を取り入れながら作成しています。水分量や食事量の把握をして記録に残しています。併設特養の管理栄養士にアドバイスを受け、カロリーや栄養バランスの把握をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは天窓からの光彩があり、南向きで芝庭園にもつながっており、明るくゆったりした空間となっています。天窓は開放可能で自然の風を取り入れ、夏場の陽射しはブラインドで遮ることができます。窓から見える風景や花瓶に活けた草花から、季節感を感じます。思い思いにゆったりと過ごせる空間を提供しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、電動の木製ベッドと洗面台が据え付けてあり、さらに利用者のプライベートルームとして、可能な限り持ち込みは自由です。入居前に使用していた仏壇、たんす、コタツ等を持参しています。全体として少しすっきりとした部屋の印象です。今後も利用者や家族と相談し、利用者一人ひとりの生活スタイルに合わせ、その人らしい馴染みのある部屋作りへの取り組みが望まれます。また居室の臭いが気になることもあるため、暑い時期は定期的に換気や掃除など、細部への配慮が期待されます。		